

バン *Gallinula chloropus* (Linnaeus)

【選定理由】

以前は沿岸部・平野部・丘陵地の水田や水路・池沼、公園の水辺などにごく普通に生息する水鳥であった。クイナ科の中では最も身近な種であり、多くが夏鳥でありながら冬期は狩猟対象種に指定されている。近年繁殖期の生息数が激減していることから、繁殖個体群は絶滅危惧Ⅱ類と評価された。越冬個体群についても生息数がかなり減少していることで、準絶滅危惧と評価された。

【形態】

全長 32cm。雌雄同色で頭から下面は青紫色を帯びた黒色、上面は緑色を帯びた褐色で嘴の先は黄色。嘴の基部と額は赤色で、脇の上部および下尾筒に白色部がある。脚は黄色で指が長く、脚の基部には赤色部がある。冬羽は額の赤色部分が小さく、鮮明でない。ヒナの産毛は黒色で、頭の皮膚と嘴の半分が赤い。若鳥は嘴全体が橙色味を帯びて、嘴や額に赤色部がなく、体は褐色味を帯びる。



愛知県安城市, 2015年6月6日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

かつては県内平野部と半島部を含む丘陵地の水辺に広く分布しており、沿岸部に近い場所ほど生息数が多い傾向があった。主に夏鳥であるが県の南部では越冬する個体もいる。

【国内の分布】

国内全域に生息して繁殖するが、北部では数が少ない。本州中部以北では主に夏鳥であるがそれより南では留鳥である。関東や中部の太平洋沿岸では、越冬する個体もいる。

【世界の分布】

オセアニアを除く全世界の熱帯から温帯に生息し、緯度の高い場所で繁殖するものは冬期に暖地へ移動する。

【生息地の環境／生態的特性】

主に平地や沿岸部、丘陵地の池沼、水路、河川のヨシ原や水田などに生息して繁殖する。ヨシやガマなどの水草に、茎や葉などを絡めて巣を作る。食性は昆虫や小魚、両生類などの他に、水草などの植物も食べる雑食である。長い足指を使って水草の上を歩いたり、水面を泳いで移動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

沿岸部の水田や水路、ヨシ原などにごく普通に生息して繁殖する水鳥であったが、近年は生息数が激減している。減少の要因として、餌場である水田が隔年で麦と大豆を転作するようになり、餌となる水生生物が減少したことが考えられる。また、同様に水路や池沼で繁殖するカイツブリにも大きな減少傾向が見られることから、アカミミガメやオオクチバスなどの移入動物によるヒナの捕食も重大な要因であると考えられる。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立池の遊休部分に、池沼の環境を復元することが理想である。都市公園の池や都市部の遊水池でも、繁殖期にある程度の水量と餌生物の確保ができれば生息は可能である。

【特記事項】

本種やヒクイナ、ヨシゴイなどの希少な水鳥に見られる現象として、最後に残るのは住宅地等の遊水地や都市公園の池などであるが、水鳥に配慮のない管理により消失することが大半である。

【関連文献】

叶内拓也・安部直哉・上田秀雄, 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥, pp.210-211. 山と溪谷社, 東京.

(高橋伸夫)